

よっ葉だより

2018年
2月12日号
No.495

地産地消～よっ葉で育む



いのちと未来～

よっ葉生活協同組合

寒波が続いて生活に影響がでていますが 健康第一で乗りきりましょう

— 野菜の欠品、次週届けて申し訳ありません —

雪に慣れない東日本ですが、低温が昨年末から続いて、農作物の生育の遅れや低温、乾燥で風邪の流行が広まっております。

水道管の凍結、暖房の確保などに加えて、風邪対策に気を使われていることと思います。雪が降った翌日に、運送会社がほとんど身動きがとれず、途中で商品が止まり、よっ葉生協に届かない状況が起きました。

組合員の皆様のところにも、欠品や次週お届けのお知らせが入っていたかと思ひます。中には、個人の宅画に便に切り替えて届けてくれた生産者、業者もございました。

— 地産地消のお陰で、欠品を減らすことができました —

いつもは車で40分で納品に来られるところを倍以上の時間をかけて、またよっ葉集荷便も残雪の中、地元農家で低温で葉物が育たない以外

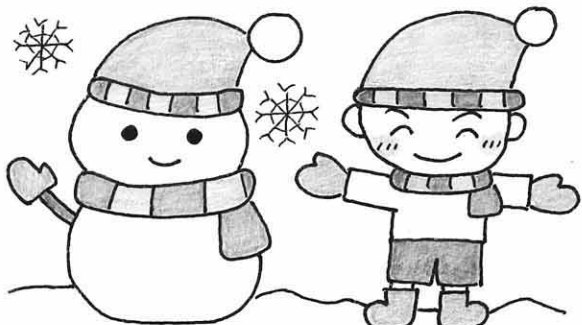
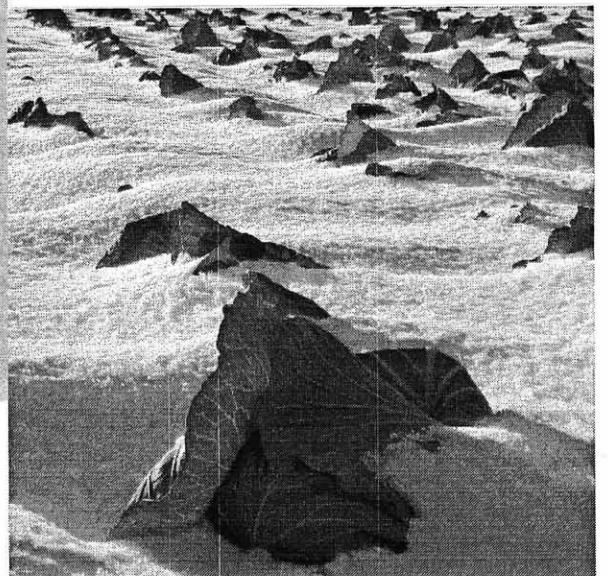
は回る事ができました。全てを地産地消で賄うことは無理ですが、

私達の食が物流、流通頼みになっています。地元が大雪、台風などの影響を受けて収穫できない時は、仕方ありませんが、出荷した農家、待っていた私達にも届かず遠くから運ぶことが、食の分業になっている現実を受け止めなければいけないでしょう。「距離が近いことは、風土、生活感が同じく感じられ、農家、加工業者にとっても、自分のこととして食を考えられる」と、雪の中を運んでくれた加工業者さんの言葉は、食は共に力を合わせてつくり出すものであり、毎日食べることが命をつなげていることを心から思っている気持ちが伝わってきました。

自然災害時でも、生産者、加工業者の頑張りと思いで、影響を少なくしようとしている努力のお陰で私達は安心して生活ができています。

よっ葉生協は、農家、加工業者の力で、食の質をあげ続けられています。北国では極寒の中、生野菜が手に入らず、その準備のために秋に乾燥野菜を作ったり、塩漬けにして春を待ちました。慣れない寒さが続きますが、よっ葉生協の質の高い食材で風邪をひかないように、ひいても悪化しないように春を待ちましょう。

(会長 冒居)



↑「雪を掘ると雪に埋まってしまったほうれん草が」...

「雪に埋まってしまったキャベツ畑」→